



朝の訪れと夕暮れを告げる、心に染み入る鐘の音。未来に残したい音環境を集めた「まえばしの音風景」に紹介される龍蔵寺から、毎日午前6時と午後6時に鳴り響きます。今回は、ここから敷島公園ばら園を目指す片道約3キロのコースを歩いてみましょう。

桃ノ木川を渡り西へ歩くと水道資料館があります。本市の近代建築や水道の歴史を今に伝えるこの建物は昭和4年に建設されたもので、レトロな雰囲気は情緒たっぷり。配水塔とともに国登録有形文

美しいバラと近代建築を巡る

前橋ウォーカー

Maebashi Walker

南橋地区



化財となっていて、近代水道百選にも選ばれています。

次は、7,000本の色鮮やかなバラが迎えてくれるばら園へ。600種のさまざまな色や香りが楽しめる、その豊かな表情が訪れる人たちを和ませてくれます。6月10日(日)まで春のばら園まつりを開催中で、園内をばらガイドが案内してくれます。また、苗木や草花の販売、前橋産新鮮野菜市などの多彩なイベントを開催するほか、午後8時30分までばら花壇のライトアップも行っています。

園内には国立原蚕種製造所を移築した蚕糸記念館や郷土の詩人・萩原朔太郎の生家を移築した萩原朔太郎記念館も。生糸や詩など、本市が誇る伝統や歴史、文化を訪れる人たちに教えてくれます。

美しいバラを愛でながら、本市の歴史を物語る建築物などを巡ってみませんか。

消費者から喜ばれる農産物を



ぐんま女性農業委員ネットワーク初代会長
青木 朱美さん 61歳
富士見町田島

県内女性農業委員77人による「ぐんま女性農業委員ネットワーク」が設立され、その初代会長として活躍している。

「ことし1月、このネットワークが発足。10年以上前から女性農業委員組織が結成されている都道府県もあるため、これで全国の仲間入りができました。農業が抱える課題を多くの人たちと考えることができる、情報交換しながら県内農業に生かせることがうれしかったです。」

専業農家に生まれ、大学で農業を学び就農。昨年7月、市農業委員に。現在はキャベツやブロッコリー、エダマメ、コマツナなど、夫や雇用者たちと露地野菜を中心に栽培している。

「農業は自然相手の仕事で作柄や収入は天候次第です。後継者不足や就農者の

高齢化、遊休農地の問題など、どこの地域も同じですが課題もあります。でも、自然の中で暮らすことが好きだから、毎日、楽しく働いているんですよ」

忙しい中でも時間を見つけ、近県をドライブすることが楽しみ。その土地の農産物を見たり、買ったりして県内農業に生かさないかヒントを考えるといい。

「女性の視点から農産物売り込みたいと思っています。また、赤城山南麓の農村観光を進めることで、都会に住む人との交流も層厚りたいですね」

農業青年クラブ、農協女性部などで活動した経験も。その行動力を発揮しながら、消費者に喜ばれる農産物をみんなで作ることで、地域農業の活性化に寄与していきたいと意欲を燃やしている。

体験を通して自然に親しむ

東上野町の神沢川で5月19日、親子環境教室を開催しました。自然に親しめるこの催しに、大勢の親子が参加。みんなで川の中に入って遊んだり、ザリガニやドジョウなどの生き物を観察したりするなど、楽しくふるとの良さや自然環境について学びました。

郷土の詩人・朔太郎をしのぶ

5月13日、前橋文学館で没後70年・第40回朔太郎忌を開催。萩原朔太郎の孫・萩原朔美さんのあいさつに続き、講演や詩の朗読、ミュージカル、マンドリン演奏などの多彩な催しが。また、新たに見つかった書簡も紹介され、人となりをしのびました。

気軽にできる簡単介護食作り

前橋プラザ元気21で5月15日、楽楽食講座を開催。食の楽しみを体験しながら学ぶため、男性20人が参加。あえ物などの簡単な介護食の作り方を学びました。自分で作った料理を試食した参加者からは「これなら家でも簡単に作れそう」と笑顔がこぼれました。

働く人たちが白球交えて交流

5月13日、産業人スポーツセンターで勤労者ソフトボール大会を開催しました。働く人たちがスポーツを通じて交流を図るために毎年開催しているこの大会。14チーム210人が参加し、どのチームも優勝目指して爽やかな汗を流しました。